

部会長
寄稿

「共通教育」…？ 「教養教育」に変えませんか？

大学教育入門セミナー部会長
工学部 材料開発工学科 目 不二雄

昨年4月から、同じ学科の櫻井教授の「大した用事もない部会長だよ」の甘い言葉に誘われて、引き受けてしまったのが大学教育入門セミナー部会長の大役です。「大した用事もない部会長だよ」これはとんでもない嘘！早々に共通教育センター長からメールがきまして、①7月に「大学教育入門セミナー代表者懇談会」を開いて司会進行をやってほしい、②9月にある「福井大学学生指導研究会」で大学の導入教育について話をしてほしいとのこと。ここで正直に告白します。我が儘で会議嫌いの私ですから、野次馬にはなりますが、大学全体のことを考えたことは皆無だったのです。共通教育担当の松村さんをお願いして、共通教育センター規程集、履修の手引き、年度計画表などをそろえて頂いて、約1時間ほど、説明講義を受けました。これが共通教育センターとの関わりのスタートでした。

両方の会合で、入門セミナーから、学生の評判の良くない管理職の講義はいらない…などの私論は言ってしまいましたが、全体に何とか役目だけは果たせました。これは共通教育担当の松村さんの大きな助けとセンター長の暖かい励ましがあったからで、この場をかりて感謝いたします。

あとは任期が切れる3月を待つばかりと気楽に構えていたところ、この原稿の依頼。ついこのあいだまで教育学部でお世話になった先生方の依頼ですから断るわけにいかず、引き受けた次第です。…長い前書きでした。

「共通教育」…It sounds poor! そう思いませんか？あまりにも安直で機能万能のネーミング。やっぱり「教養教育」だと思います。難しい言葉でいろんな方が書いておられますから、私は本音でいきます。

今は昔となりますが、大学に入学してまず教養部の講義を受けました。40年以上前のことですが、いまでも印象深かった講義は雰囲気だけは憶えています。高校の生物は主として植物と動物の分類が主だった頃ですが、まずワトソン、クリックの2重らせんの話やオパーリンの生命の起源に関する説からはじまる「一般生物学」。目から鱗とはこのこと…鳥肌がたつ思いをしました。微積を使うとなーんだ簡単じゃないか…そう感じさせてくれた「一般物理学」。私は高校で地学を履修してなかったのですが、岩波新書の「日本列島」と「地球の歴史」を教科書に使った「一般地学」。不思議とわかったのです。一時地学に興味を持って地質図を

作成する野外実習に加わったことがありました。近代社会と法規範を力説してくれた「法学概論」。源氏物語の桐壺の巻を懇切丁寧に解説してくれて、この巻が読めれば後は何とか源氏は読めると言ってくれた国文学の授業。近代哲学におけるマルクス哲学の意味が主題だった哲学の授業…これらがその後の人生でどれだけ役に立ったか…そんな役立つ論はつまらないですが、これらは、いろんな折に考えさせられたり、考えの基となったのは確かです。これが教養

教育だと思います。

「教養教育」を「共通教育」というつまらない名前に変えた時から、私たちは何かをなくしたような気がしてなりません。昨年3月退官された、管理職もやってこられた先生が「目さん、大学はつまらなくなったね。一年でも二年でも早く辞めるほうが身のためですよ」と言っておられたのが印象的です。